

韓国人夫婦はお互いをどう呼び合うか？

— 夫が妻を呼ぶ時 —

尹 秀 美

人間社会環境研究科 博士後期課程 3年

1. 派遣期間・訪問先

派遣期間は2011年12月14日から2012年1月13日までの約1ヶ月であった。韓国人夫婦間の呼びかけ表現が、夫婦の年齢や居住地域など夫婦の社会的特性によって異なるのか、異なるとするならどう異なるのかを調査するため、首都であるソウルをはじめ、大田・光州・釜山・大丘の5地域を訪問した。

2. 夫婦間の呼びかけ表現

初対面の人と会話を始める時、相手をどう呼べばいいのか。おそらく、様々な選択肢の中から一番適切に思える呼びかけ表現をピックアップするのであろう。その際、日本語には「一さん」という便利な接尾語があるため、初対面の人であっても、名字に「一さん」を付けて呼べばおそらく問題はないはずである。韓国語にも似たような表現の「一씨(シ)¹」があるが、その使用範囲は日本語に比べ狭く、たとえば目上の人に対して名字 + 「一씨(シ)」で呼びかけることはかなり失礼なことである。

他方、夫婦間の呼びかけ表現を見ると、日本では自分の妻を「ママ」や「お母さん」、自分の夫を「パパ」や「お父さん」で呼ぶことは不自然ではない。日本において家族内の呼称は、その家族構成員の中で一番年下の人物を中心に決めるためである(鈴木, 1973)。

ところが、韓国では自分の妻や夫を「엄마[オンマ](ママ)」や「아빠[アパ](パパ)」で呼ぶ人はめったにいない。「ママ」や「パパ」を使う場合は、子供の名前を前に付けて「誰々のママ」や「誰々のパパ」と呼ぶ。自分の妻は自分の子供のママであり、自分自

身のママではないからである。

3. 呼びかけ表現を好む韓国人、呼びかけ表現を避ける日本人

Yoon(2008)では、実際の日本人夫婦と韓国人夫婦の会話をそれぞれ録音調査した。その結果、会話中、日本人夫婦は呼びかけ表現をめったに使わないのに対して、韓国人夫婦は、相手と会話を開始する際に呼びかける時だけでなく、会話が進行している最中でも、頻繁に呼びかけ表現を使うことが明らかになった。そして、一組の夫婦の間で使われる呼びかけ表現のバリエーションに関しても、日本人夫婦のほとんどが、だいたい一つの呼びかけ表現でお互いを呼び合っているのに対し、韓国人夫婦は会話の場面によって様々な呼びかけ表現を使い分けていた。このように、日本人夫婦に比べて韓国人夫婦が様々な呼びかけ表現を頻繁に使うのは、呼びかけ表現が韓国語の会話においてはコンテキスト化の合図(contextualization cues; Gumperz, 1982)というメタコミュニケーションとしての役割を果たすからだと考えられる。

ところで、Yoon(2008)は音声録音調査という方法を用いたので、自然な会話に基づいた音声データが得られたものの、得られたデータが少なく、量的に検証することはできなかった。また、その調査対象者についても、年齢が20代から30代までで、短大卒以上の学歴を持ち、ソウルを含む首都圏に居住する夫婦、というように調査対象者の社会的属性がかなり限られていた。そこで、今回の調査では、韓国語の会話において、呼びかけ表現がコンテキスト化の合図としての役割を果たすというYoon(2008)の主張を定量的に検証

¹ 日本語の「さん」は、名字の後ろに付け、たとえば「田中さん」と呼ぶことができる。ところが、韓国語の「シ」を名字の後ろに付けるのは、一般に、男性の非専門職(単純労働など)従事者を呼ぶ場合に限られる。韓国語において、「フルネーム+シ」や「名前+シ」の場合の「シ」は、主に「さん」の意味がある。

するとともに、幅広い年齢層における呼びかけ表現のバリエーションを探るため、調査対象者になる夫婦の年齢を、20代から60代まで、また居住地域を5地域に拡大し、学歴のバリエーションも様々にし、総合的に調査した。また、従来の韓国人夫婦の呼びかけ表現に関する研究ではほとんど注目されていない、一組の夫婦の間でどの程度多様な呼びかけ表現が使われているか、そのバリエーションについても調査した。その結果の一部(韓国人の夫の結果)を紹介する。

4. 調査方法

韓国人の既婚男性を調査対象に、自分の配偶者(妻)の呼び方を調査するために、記述式アンケートを実施した。調査対象者に関する具体的な情報は以下のようである。

- 1) 年齢: 20代から60代以上の既婚男性 122名
- 2) 居住: ソウル・釜山・光州・大丘・全州の5地域
- 3) 学歴: 高校卒業以上



<写真1> 大丘市内のある居酒屋で宴会を始める前にアンケートを作成している調査対象者

本研究は、社会言語学的な調査であるため、既婚男女を調査対象に、夫婦間の呼びかけ表現だけでなく、本人や配偶者の社会的属性に関する情報(年齢・職業などの個人情報)についても尋ねざるをえなかった。

これはかなり難しい作業であった。<写真1>は、大丘市内のある居酒屋で、宴会を始める前に、アンケートに協力してくれた人々の様子である。今回の調査では、夫婦の集まりなどの宴会の情報を事前に入手し、そこで調査を行った場合もある。

5. 韓国人の夫は自分の妻をどう呼ぶか

5.1. 全体のバリエーション

<表1>は、韓国人の夫が自分の妻をどう呼ぶかに関する調査の結果を年代別にまとめたものである。

<表1> 韓国人夫の妻に対する呼びかけ表現

年齢	呼びかけ表現
20代	이름+야(아), 자기야, 여보, 이름+씨, 허니,
30代	자기(야), 여보, 여보야, 엄마야, 야, 허니, 이쁜이(아), 섹시, 자녀이름+엄마, 성+마눌, 니, 너, 이름+야(아), 엄마, 애칭, 어이, 이름+씨, 당신, 풀네임, 베이비, 마눌, 별명, 이름+님, 와이프,
40代	여보, 이름, 자기(야), 별명, 봐라, 자녀이름+엄마, 너, 풀네임+씨, 아이이름+야(아), 당신, 이름+씨, 어이, 야
50代	여보, 이름+야(아), 이름+씨, 자기, 자녀이름+엄마, 봐라, 니, 안있나, 그자, 당신, 어이, 야, 자녀이름+야(아),
60代以上	자녀이름+엄마, 여보, 자기, 자녀이름+야(아), 임자, 당신, 마님, 꽃사슴, 망구, 할멈, 어이, 보시오, 이름+씨,

20代から60代以上の韓国人の夫が妻を呼ぶ時の呼びかけ表現は、「ヨボ²」「ザギ(ヤ)³」「名前+シ」の3つである。「ヨボ」は「こっちをみてください」という表現の縮約形である。もともと人に呼びかける時の言葉であったが、現在では夫婦間(たまたに恋人同士)においてのみ使われるようになったものである。したがって、お互いを「ヨボ」で呼び合っているカップルを見ると夫婦であることが分かるような、夫婦間の代表的な呼びかけ表現である。「ザギ(ヤ)」という

² 公式的に夫婦だけが、お互いを呼び合う時に使う表現。最近では恋人同士でも使うカップルがいる。

³ 「自己」、恋人や夫婦の間でお互いを呼ぶ言葉。主に若い世代で使われる。

呼びかけ表現は、主に若い世代の夫婦や恋人同士で使われていたというイメージ(国語辞書の定義もそうである)があったが、今回の調査で、50代や60代以上の夫も自分の妻を呼ぶ時「ザギ(ヤ)」を用いていることが明らかになった。この結果は、50代以上で「ザギ(ヤ)」を使っていた人は一人もいなかったという韓(1996)の結果とはかなり異なるが、調査時期や調査方法の違いがその原因であると考えられる。60代以上の夫を除いて、20代から50代の夫では「名前+ヤ(ア)⁴」が、が共通に使われていた。

今回の調査では、20代の夫婦はまだ子供が小さいか、いなかったため「子供の名前+ママ」のような呼びかけ表現は見られなかった。しかし、30代から60代以上の夫は、共通して自分の妻を「子供の名前+ママ」、「ダンシン⁵」、「オイ⁶」で呼んでいた。なお、20代と30代、そして60代の夫は、40代と50代の夫が使わない「ハニー」などの愛称で、自分の妻を呼んでいた。

30代の夫が妻を呼ぶ時の表現に関して、「ダンシン」やニックネームとは別に、恋人や夫婦の間で使われる愛称である「イブンア⁷」「ベビー」や、「妻」を意味する昔の言葉である「マヌラ⁸」や、本来は結婚していない乙女を称す言葉であったが、最近は自分の妻を呼ぶ時にも使うようになった「セクシ⁹」など、様々なバリエーションがあることが分かった。特に、日本語の「ママ」を意味する「オンマ」と、「オンマ+ヤ¹⁰」を自分の妻を呼ぶ時に用いる調査対象者も、それぞれ一人ずついた。興味深いことは、その調査対象者は2人とも自分より妻の方が年上であった(調査対象者1:1才差、調査対象者2:4才差)。

今回の調査結果で興味深いことは、自分の妻を「子供の名前+ヤ(ア)」で呼ぶ例である。韓国の家族内の呼称を見ると、中年以上の父親や母親が自分の子供や嫁を呼ぶ時、「子供の名前」ではなく、「孫(子供の子供)の名前」で呼ぶ場合があるが、中年以上の夫婦の間で、夫が妻を自分の「子供の名前」で呼ぶことも

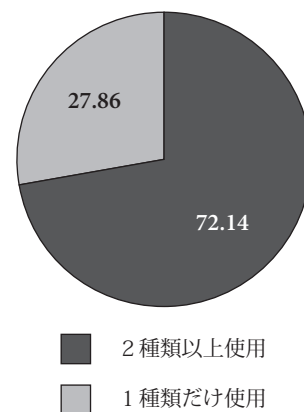
明らかになった。

5.2. 場面によるバリエーション

(1) 2種類以上の呼びかけ表現で自分の妻を呼ぶ韓国人の夫

ここでは、子供の年齢や人数などの点で、家族構成の特性が似ている30代から40代の夫の結果を取り上げ、場面(2人きりの場面、子供の前、両親や目上の人の前)によって好まれる呼びかけ表現を分析する。

<図1>は、2種類以上の呼びかけ表現で自分の妻を呼ぶ韓国人の夫の比率をグラフで表したものである。



<図1> 自分の妻を2種類以上の呼びかけ表現で呼ぶ韓国人の夫の比率

自分の妻を2種類以上の呼びかけ表現で呼ぶ韓国人夫は72.1%、1種類の呼びかけ表現だけを使う夫は27.8%で、2種類以上の呼びかけ表現を使う夫のほうが多い。

(2) 2人きりの場面

<表2>は、韓国人の夫は、妻と2人きりの場面で、

⁴ 目下の人や動物を呼ぶとき名前などの後ろに付ける格助詞。

⁵ 日本語の「あなた」。韓国語では夫婦がお互いを呼ぶ合う時に用いられる。

⁶ 日本語の「おい」と同じ。

⁷ 日本語で直訳すると「かわいい+ちゃん」の意味。

⁸ 「妻」、中年以上の妻を気安く呼ぶ言葉。

⁹ まだ結婚をしていない若い女の人。

¹⁰ 「ママちゃん」、不自然な韓国語。

主にどのような呼びかけ表現を用いて妻を呼ぶかをまとめたものである。韓国人の夫が妻と2人きりの場面において、妻に対して一番多く使った呼びかけ表現は「ヨボ」(37.9%)である。二番目に多く使われたのは、「ザギ(ヤ)」(20.7%)である。三番目は「名前+ヤ(ア)」(19%)、「愛称」(17.2%)、「子供の名前+ママ」(15.5%)である。愛称には「ベビー」「ハニー」「ウサギちゃん」「かわいいちゃん」「セクシ」などがあつた。

〈表2〉 2人きりの場面において、夫が妻を呼ぶ表現及びその比率

順位	呼びかけ表現	比率 (%)
1	여보 (ヨボ)	37.9
2	자기(야) ザギ(ヤ)	20.7
3	이름+ 야(아) 名前+ヤ(ア)	19.0
4	애칭 愛称	17.2
5	자녀이름+ 엄마 (子供の名前+ママ)	15.5

(2) 子供と一緒にいる場面

〈表3〉は韓国人夫婦が子供と一緒にいる場面において、夫が妻をどう呼ぶか、その種類と比率を表したものである。

〈表3〉 子供と一緒にいる場面において、夫が妻を呼ぶ表現及びその比率

順位	呼びかけ表現	比率 (%)
1	여보 (ヨボ)	37.5
2	자녀이름+ 엄마 (子供の名前+ママ)	29.2
3	이름+ 야(아) 名前+ヤ(ア)	16.7
4	자기(야) ザギ(ヤ)	12.5
5	애칭 愛称	8.3

2人きりの場面と同じく「ヨボ」(37.5%)が一番多く使われていた。ところが、2人きりの場面で5位で

あつた「子供の名前+ママ」が29.2%で2位に上がっている。子供を前に子供を考慮して自分の妻を呼んでいると考えられる。「名前+ヤ(ア)」は16.7%で、順位は2人きりの時と同じく3位で、比重にもほとんど変化がない。一方、2人きりの場面で、それぞれ2位と4位であつた「ザギヤ」と「愛称」は、4位と5位に変わった。

(3) 両親など目上の人と一緒にいる場面

〈表4〉は両親など目上の人と一緒にいる場面で、韓国人の夫が自分の妻をどう呼ぶかをまとめたものである。

〈表4〉 両親など目上の人と一緒にいる場面において、夫が妻を呼ぶ表現及びその比率

順位	呼びかけ表現	比率 (%)
1	여보 (ヨボ)	38.2
2	자녀이름+ 엄마 (子供の名前+ママ)	36.4
3	이름+ 야(아) 名前+ヤ(ア)	18.2
4	이름+ 씨 名前+シ	7.3
5	자기(야) ザギ(ヤ)	5.5
	당신 (ダンシン)	5.5

両親など目上の人と一緒にいる場面においてもやはり「ヨボ」(38.2%)の使用率が一番高かつた。次に使用率が高いのは「子供の名前+ママ」(36.4%)と「名前+ヤ(ア)」(18.2%)の順で、子供と一緒にいる場面と同じである。次に使用率が高かつたのは「名前+シ」(7.3%)で、2人きりの場面や子供と一緒にいる場面では5位以内に入っていなかつた表現である。両親や目上の人の前で、夫は妻を尊重していることを表わそうとする呼びかけ表現であると考えられる。

最後に、「ザギ(ヤ)」(5.5%)と「ダンシン」(5.5%)が共に5位である。「ザギヤ」は2人きりの場合の使用率20.7%に比べると、その使用率がかなり減っているが、自分の両親や目上の人の前で、自分の妻を「ザギヤ」や他の「愛称」で呼ぶことは、礼儀正しくないか、もしくは恥ずかしいと感じるのだろう。「ダンシ

ン」に関しては、両親など目上の人がある場面で初めて、その使用率は5位以内に入っている。

6. 慶尙道の男の人は無愛想？

本調査では、韓国人の夫が妻に対する呼びかけ表現を選択・決定する際の主な要因について夫婦の特性などから多角的な分析を試みた。ここでは、地域差に焦点をあて、分析を行う。韓国社会では、一般に、慶尙道(慶尙南道・慶尙北道、<図2>参照)出身の男の人は無愛想で妻や恋人に対し愛情表現があまりできないと言われているが、慶尙道出身の夫と他地域出身の夫が、それぞれどのような呼びかけ表現で妻に呼びかけるかを見てみよう。場面による分析と同じく、30代から40代の夫が妻に対し、2人きりの場面にもっともよく使う呼びかけ表現を分析対象にする。



<図2> 韓国の全国地図

<表5>と<表6>はそれぞれ、2人きりの場合妻をどう呼ぶかに関する、慶尙道出身の夫と慶尙道以外の地域出身の夫の調査結果である。両グループ共に、「ヨボ」(慶:38%、他:40.9%)を一番多く使った点では同じである。「名前+ヤ(ア)」について、順位は両グループで逆転しているが(慶:2位、他:3位)、その使用率はほぼ同じである(慶:21.3%、他:18.2%)。ところが、「ザギ(ヤ)」の使用率については、慶尙道出身は17%である反面、他地域出身は27.3%で、慶尙道以外の地域出身の方が高かった。

若い世代の夫婦や恋人同士で使われてきた「ザギ(ヤ)」を、慶尙道出身の夫は他地域の夫に比べて少な

く使うのは、慶尙道出身男性は、愛情表現があまりできないという、一般的言説を裏付ける結果であると考えられる。しかし、これは30代・40代の夫のデータだけを分析したものであるため、より広範囲のデータによる精密な分析が必要であろう。

<表5> 2人きりの場面において、慶尙道出身の夫による妻に対する呼びかけ表現

順位	呼びかけ表現	比率 (%)
1	여보 (ヨボ)	38.0
2	이름+야(아) 名前+ヤ(ア)	21.3
3	자기(야) ザギ(ヤ)	17.0
4	자녀이름+엄마 (子供の名前+ママ)	12.8
5	애칭 愛称	10.6

<表6> 2人きりの場面において、慶尙道以外の地域出身夫の妻に対する呼びかけ表現

順位	呼びかけ表現	比率 (%)
1	여보 (ヨボ)	40.9
2	자기(야) ザギ(ヤ)	27.3
3	이름+야(아) 名前+ヤ(ア)	18.2
4	자녀이름+엄마 (子供の名前+ママ)	18.2
5	애칭 愛称	13.6

7. 妻の仕事の有無と呼びかけ表現

妻の仕事の有無によって夫が妻を呼ぶ呼びかけ表現が異なるのであろうか。<表7>と<表8>はそれぞれ、妻が仕事を持っているグループと持っていないグループで、夫が妻を呼ぶ言葉を多い順に示したものである。上の地域による比較と同じく、30代から40代の夫が妻に対し、2人きりの場面においてもっともよく使う呼びかけ表現を分析対象とする。今回の調査対象者の夫は全員仕事を持っていたため、妻が仕事を

持っているか、持っていないかに分けた。

<表7> 2人きりの場面において、仕事を持つ妻に対する呼びかけ表現

順位	呼びかけ表現	比率 (%)
1	여보 (ヨボ)	38.5
2	이름+야(아) 名前+ヤ(ア)	18.0
3	애칭 愛称	18.0
4	자녀이름+엄마 (子供の名前+ママ)	15.4
5	자기(야) ザギ(ヤ)	12.8

<表8> 2人きりの場面において、仕事を持っていない妻に対する呼びかけ表現

順位	呼びかけ表現	比率 (%)
1	여보 (ヨボ)	40.0
2	자기(야) ザギ(ヤ)	26.7
3	이름+야(아) 名前+ヤ(ア)	23.3
4	자녀이름+엄마 (子供の名前+ママ)	16.7
5	애칭 愛称	10.0

妻の仕事の有無と関係なく、両グループで「ヨボ」が一番多く使われ、その使用率もほぼ同じである(有:38.5%、無:40%)。ところが、「ザギ(ヤ)」の使用率に関しては、妻が仕事を持っていないグループでは26.7%(2位)と高いが、仕事を持っているグループでは12.8%(5位)と低く、差が認められる。しかし、「愛称」の使用率に関しては、逆に、妻が仕事を持っていないグループで10%と低いが、仕事を持っているグループで18%というように高い値となり、分布が異なっている。「愛称」はさまざまな呼びかけを含むので、使用率が高いということは、言い換えれば、仕事を持つ妻がより多様な呼びかけ表現で夫から呼ばれているということを意味する。それにはいろいろな原因があると思われるが、一つ考えられるのは、愛称

を考えるにあたって、仕事の特性と関連づけが可能だということだろう。たとえば、自分の妻が看護師であれば、白衣の天使という意味で「エンゼル」といった愛称を付け、それで呼ぶことができるかもしれない。

8. 今後の展望

本調査では、韓国語会話においてコンテクスト化の合図というメタコミュニケーション的に重要な役割を果たす呼びかけ表現について、韓国人の夫が妻を呼ぶ言い方を中心に分析を行った。その結果、韓国人の夫は自分の妻を様々なバリエーションを用いて呼び、その呼びかけ表現は、夫の年代によって共通するものもそうでないものがあるのを確認した。また、夫婦がいる場面(2人きりか第三者がいるか)や社会的特徴(出身地や経済能力)によっても、呼びかけ表現がどのように異なるのかを明らかにした。

今後は、夫婦の自然な会話を録音調査することによって、会話の中で実際どのような呼びかけ表現を使うのか、どのような場面でのどのような呼びかけ表現の出現率が高いのか、などを調査する必要がある。

<参考文献>

- 韓先熙(1996):「韓日両国にける呼称対照研究—夫が妻を呼ぶ時—」『語文学研究』4, 祥明女子大学校語文学研究所, pp.579-605.
- 鈴木孝夫(1973):『ことばと文化』岩波書店.
- Gumperz, John J. (1982): *Discourse Strategies*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Yoon, Sumi (2008): "Comparison between Korean and Japanese address terms as contextualization cues in husband-wife's dialogue." *Inquiries into Korean Linguistics* III, pp. 377-387.